

The 11th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加して

濱田 和

(日老医誌 2020 ; 57 : 208)

このたび IAGG・日本老年医学会の御力添えを賜り、The 11th IAGG Master Class on Ageing in Asia に参加させて頂きました。本会は復旦大学附属華東医院が主催され、2019年12月19日～21日に中国・上海にて開催されました。降雪こそなかったものの、金沢と同等かそれ以上の寒さであり、また残念ながら曇り～小雨の3日間でありました。しかし主催者側から提供頂いたホテルは会場から徒歩数分の立地であり、特に不自由なく会場入りできました。また同じ教室の先生談や過去の体験記などでは早朝～深夜までタイトなスケジュールであったと聞いていたこともあり戦々恐々としていましたが、今回は概ね9:00～18:00の間でスケジュールを組んで頂いておりました。

今回のテーマは「Geriatric Syndrome」でした。多種多様な病態が関与する概念であり、講師の先生方からは誤嚥、食思不振、譫妄など多岐にわたる講演を拝聴させて頂きました。また小グループ毎の症例検討、研究発表もありました。症例検討は1日目に行われ、各グループ別に提示された症例について討論を交わしました。日本で診療と同様の鑑別、考察であると感じた一方で、あま

り馴染みのない薬剤、システムなどもしばしば議論内に出現し、改めて各国毎の事情や体制の違いなどを感じました。研究発表は2日目に2回に分けて行われ、各参加者の研究についてスライドないしはポスターを用いて口頭発表を行いました。英語での検討会、発表は今回が初めてでしたが、私の拙い英語発表に対してもグループ内の先生方から興味をもって聞いて頂き、また数多くの御質問を頂戴しました。

私は初期研修後から約10年間を消化器内視鏡医として研鑽を積み、一般内科・老年医学を学ぶために2019年7月より金沢医科大学・高齢医学に在籍しております。老年医学の基礎の部分から勉強中の身であることもあり、英語のみならず臨床や専門用語などの面でも経験不足であり関係各所に御迷惑を御掛けしたと思います。特に、小グループディスカッションにてチューターを務められた Chang Won Won 先生には親身になって接して頂きました。IAGG・日本老年医学会・復旦大学附属華東医院の関係者の皆様にも大変御世話になりました。この場を御借りして御礼申し上げます。